

## 2023年9月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月15日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社碧  
 コード番号 3039 URL <https://www.heki.co.jp>  
 代表者（役職名）代表取締役（氏名）金城 智子  
 問合せ先責任者（役職名）経営企画部長（氏名）福地 邦男 TEL 098-863-1533  
 定時株主総会開催予定日 2023年12月20日 配当支払開始予定日 —  
 発行情報提出予定日 2023年12月28日  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会の開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2023年9月期の業績（2022年10月1日～2023年9月30日）

#### (1) 経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期	893	28.0	△45	—	△43	—	△48	—
2022年9月期	697	52.9	△107	—	△112	—	123	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式 調整後1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年9月期	△82.22	—	△26.5	△6.3	△5.0
2022年9月期	208.77	—	84.4	△12.5	△15.4

（参考）持分法投資損益 2023年9月期 ー百万円 2022年9月期 ー百万円

#### (2) 財政状態

	総資産額	純資産額	自己資本比率	1株当たり純資産額
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期	674	158	23.6	269.45
2022年9月期	709	207	29.3	351.67

（参考）自己資本 2023年9月期 158百万円 2022年9月期 207百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年9月期	△120	△61	49	417
2022年9月期	68	927	△615	550

## 2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年9月期	0.00	0.00	0.00	—	—	—
2023年9月期	0.00	0.00	0.00	—	—	—
2024年9月期(予想)	0.00	0.00	0.00		—	

## 3. 2024年9月期の業績予想 (2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	960	7.5	5	—	2	—	1	—	2.52

### ※ 注記事項

#### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

#### (2) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式含む)	2023年9月期	590,000株	2022年9月期	590,000株
② 期末自己株式数	2023年9月期	—株	2022年9月期	—株
③ 期中平均株式数	2023年9月期	590,000株	2022年9月期	590,000株

※ 決算短信は公認会計士または監査法人の監査の対象外です。

### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信 (添付資料) 3ページの「1. 経営成績 (3) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績	
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 今後の見通し	3
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
4. 財務諸表及び主な注記	
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	8
(3) 株主資本等変動計算書	11
(4) キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 財務諸表に関する注記事項	
(継続企業の前提に関する注記)	14
(持分法損益等)	14
(セグメント情報等)	14
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	15

## 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する定性的情報

#### 当期の経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済への影響が和らぐ中で、個人消費の持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調となりました。一方感染拡大の懸念や、ウクライナ・ロシア情勢の長期化や、急激な円安等の影響によるエネルギー価格や原材料価格の上昇に加え労働力不足による人件費上昇などもあり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。外食市場においては、行動制限や営業制限が解除されたことにより、社会活動の正常化に伴い客数は緩やかに回復傾向にあります。

このような環境下で外食業界として当社は、「お客様と従業員の安全確保」を最優先事項とし店舗運営に取り組んでいます。当社は企業理念として「会社の発展と社員1人ひとりの幸福と株主の利益拡大のためにお客様に満足感をご提供する」ことを企業理念として定め、店舗運営に取り組んでいます。

当社では、売上高目標の達成は必須項目としつつ利益改善を図ることを目的に経費圧縮（原価率の安定化や残業時間の改善による人件費の圧縮、社内の節電、コピー用紙の再利用）などに積極的に取り組んでいます。

一方営業面におきましては、6月、7月の大型台風の発生により大幅にキャンセルが増加しましたが、毎期取り組んでいます新商品開発表彰制度による商品の差別化、従業員の社内研修、認定制度によるレベルアップを図ることにより、サービスの質を高め売上高の増加に繋がりました。また、2023年7月に碧牧志店がオープンし、他の店舗より小型店舗となっておりますが、鉄板焼ステーキをメインに新たなニーズにお応えすべく「ごはん」ではなく店舗内で作る「焼ききたてパンや野菜スープ」を提供する特徴的な店舗になっておりオリジナル性を高めた商品を提供しております。

全店におきましても各種イベントや季節の限定メニュー及び当事業年度も継続して一品料理などの新商品開発に注力し「鉄板で焼き上げるポテトサラダ」・「もも肉とオニオンスライスの小鉢」・「もずく酢のシークワサー仕立て」・「牛すじ肉の泡盛煮込み」・「グルクン竜田揚げ平実おろし添え」等の新商品の提供によりインバウンドを含む観光客や法人向け接待の来店客数、客単価は増加傾向にあります。

以上の結果、当事業年度の売上高は893,306千円（前年同期比28.0%増）、営業損失は45,062千円（前事業年度は107,496千円の営業損失）、経常損失は43,867千円（前事業年度は112,472千円の経常損失）、当期純損失は48,512千円（前事業年度は123,176千円の当期純利益）となりました。

なお、当社はレストラン事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

##### (流動資産)

当事業年度末における流動資産は、前事業年度末と比べ93,846千円減少し、516,360千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少133,075千円、未収消費税等の増加26,466千円、預け金の増加7,539千円、売掛金の増加6,692千円によるものであります。

##### (固定資産)

当事業年度末における固定資産は、前事業年度末と比べ59,288千円増加し、158,242千円となりました。これは主に、建物の増加56,159千円、建設仮勘定の増加2,600千円、工具、器具及び備品の増加1,217千円によるものであります。

##### (流動負債)

当事業年度末における流動負債は、前事業年度末と比べ31,995千円減少し、103,760千円となりました。これは主に、未払消費税等の減少60,264千円、資産除去債務の減少5,474千円、一年内返済予定の長期借入金の増加14,151千円、未払費用の増加4,365千円、預り金の増加4,341千円、賞与引当金の増加2,791千円によるものであります。

（固定負債）

当事業年度末における固定負債は、前事業年度末と比べ 45,949 千円増加し、411,868 千円となりました。これは、長期借入金の増加 35,507 千円、資産除去債務の増加 3,489 千円、退職給付引当金の増加 3,467 千円、リース債務の増加 2,468 千円、繰延税金負債の増加 1,018 千円によるものであります。

（純資産）

当事業年度末における純資産は、前事業年度末と比べ 48,512 千円減少し、158,973 千円となりました。これは、当期純損失 48,512 千円の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して 133,075 千円減少し、417,250 千円となりました。

当事業年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は 120,423 千円（前事業年度は 68,217 千円の獲得）となりました。これは主に、税引前当期純損失 46,909 千円を計上したことのほか、未払消費税等の減少額 60,264 千円、未収消費税等の増加額 26,466 千円、売上債権の増加額 6,692 千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 61,874 千円（前事業年度は 927,588 千円の獲得）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 58,846 千円、資産除去債務の履行に伴う支出 5,963 千円、敷金の返還による収入 5,400 千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は 49,222 千円（前事業年度は 615,000 千円の使用）となりました。これは主に、長期借入れによる収入 51,500 千円によるものであります。

(3) 今後の見通し

今後の見通しにつきまして、ワクチンの接種率の増加が契機となり新型コロナウイルス感染症が収束に向かっており、インバウンドを含む観光関連産業を中心に戻りつつありますが、新たにインフルエンザの感染増加傾向がみられます。このような中、労働力不足、人件費や原材料の高騰に対し、販売商品への価格転嫁を実施しながら店舗展開の実践に取り組んでまいります。

来期の業績予想については、売上高は 960,260 千円（前年同期比 7.5%増）、営業利益は 5,282 千円、経常利益は 2,254 千円、当期純利益は 1,489 千円を見込んでいます。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言に伴う営業時間短縮要請や外食 需要の冷え込みの影響を受け、来店客数・売上高ともに大きく減少したことで、2022 年 9 月期におきましては営業損失 107,496 千円、2023 年 9 月期におきましては営業損失 45,062 千円を計上しております。また、しゃぶしゃぶ紺おもろまち店が、2022 年 11 月末付で、定期借地契約の期間満了により閉店いたしました。おもろまちの閉店後、2023 年 4 月に那覇市牧志に碧牧志店をオープンする予定でしたが、工事の遅れにより 7 月のオープンとなりました。おもろまち店の閉店後、牧志店のオープンまで約 7 ヶ月間の期間を要し、売上高に影響を及ぼす状況となりました。新型コロナウイルス感染症の収束及び外食需要の回復に向かっておりますが、営業債務や借入金返済の原資となる売上獲得の回復が鈍いと予想され、一定の期間を要するものと考えられることから、資金繰りの悪化の懸念が生じます。将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。当該状況を解消又は改善するために、当社では以下の対応策を講じてまいります。

売上改善策

① 鉄板焼ステーキレストラン「碧」事業部

主力商品の大幅な変更はありませんが、リーズナブルな価格帯のランチメニュー導入やサイドメニューのラインナップ増加を図るとともに、季節に合ったイベントの企画・実施により新規顧客の開拓に繋げてまいります。

② しゃぶしゃぶの専門店「紺」事業部

主力商品の大幅な変更はありませんが、鮮魚メニューやテイクアウトメニューの開発およびしゃぶしゃぶとランチメニューや一品料理を提供することで、幅広い顧客ニーズに対応するとともに、季節に合ったイベントの企画・実施により新規顧客の開拓に繋げており、インバウンドを含む観光客や地元企業のお客様が増加しております。今後の店舗展開として、年内に「しゃぶしゃぶ紺若狭店」をオープンする予定です。

前事業年度より、「碧」事業部、「紺」事業部全体にて、社内イベントとして新商品開発表彰制度を設け、「鉄板で焼き上げるポテトサラダ」・「もも肉とオニオンスライスの小鉢」・「もずく酢のシークワサー仕立て」・「牛すじ肉の泡盛煮込み」・「グルクン竜田揚げ平実おろし添え」等季節限定プラン、デザートプレート等の新商品が開発され、販路拡大に力を入れております。

なお、上記の売上改善策に加え当事業年度の末日現在において現金及び預金を417百万円保有し十分な手元資金を確保していることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、計算書類への注記は行っておりません。

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国内の同業他社との比較可能性の確保を重視し、当面は、会計基準につきましては日本基準に基づき財務諸表を作成する方針です。

4. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年9月30日)	当事業年度 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	550,326	417,250
預け金	20,756	28,296
売掛金	10,198	16,890
商品及び製品	2,113	2,441
原材料及び貯蔵品	12,663	12,217
前払費用	9,981	9,719
未収入金	50	125
未収消費税等	—	26,466
その他	4,116	2,952
流動資産合計	610,206	516,360
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	—	56,159
車両運搬具(純額)	462	230
工具、器具及び備品(純額)	—	1,217
建設仮勘定	—	2,600
有形固定資産合計	462	60,207
無形固定資産		
電話加入権	28	28
無形固定資産合計	28	28
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
保険積立金	38,344	41,013
長期前払費用	825	635
敷金・保証金	59,292	56,357
投資その他の資産合計	98,463	98,007
固定資産合計	98,954	158,242
資産合計	709,161	674,603

(単位：千円)

	前事業年度 (2022 年 9 月 30 日)	当事業年度 (2023 年 9 月 30 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,595	18,412
一年内返済予定の長期借入金	—	14,151
未払金	13,062	15,517
未払費用	29,946	34,312
未払法人税等	585	585
未払消費税等	60,264	—
預り金	2,000	6,342
賞与引当金	6,080	8,871
資産除去債務	5,474	—
その他	1,746	5,567
流動負債合計	135,756	103,760
固定負債		
長期借入金	300,000	335,507
リース債務	—	2,468
退職給付引当金	23,399	26,866
資産除去債務	42,519	46,009
繰延税金負債	—	1,018
固定負債合計	365,918	411,868
負債合計	501,674	515,629



(単位：千円)

	前事業年度 (2022 年 9 月 30 日)	当事業年度 (2023 年 9 月 30 日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	55,000	55,000
資本剰余金		
資本準備金	25,000	25,000
資本剰余金合計	25,000	25,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	127,486	78,973
利益剰余金合計	127,486	78,973
株主資本合計	207,486	158,973
純資産合計	207,486	158,973
負債純資産合計	709,161	674,603

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021 年 10 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)	当事業年度 (自 2022 年 10 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)
売上高	697,934	893,306
売上原価		
商品及び製品期首棚卸高	1,374	2,113
当期商品仕入高	25,440	31,600
当期製品製造原価	398,112	477,065
合計	424,927	510,779
商品及び製品期末棚卸高	2,113	2,441
商品及び製品売上原価	422,814	508,337
売上総利益	275,120	384,968
販売費及び一般管理費	382,617	430,031
営業損失 (△)	△107,496	△45,062
営業外収益		
受取利息	1	3
受取配当金	2	—
保険金収入	444	3,596
その他	304	740
営業外収益合計	753	4,339
営業外費用		
支払利息	4,932	2,445
支払手数料	374	—
保険解約損	193	54
その他	227	644
営業外費用合計	5,728	3,144
経常損失 (△)	△112,472	△43,867
特別利益		
固定資産売却益	225,835	—
雇用調整助成金	10,616	—
緊急雇用安定助成金	2,799	—
事業復活支援金	2,500	—
営業時間短縮協力金	35,955	—
トライアル雇用補助金	—	120
補助金収入	—	492
特別利益合計	277,706	612
特別損失		
固定資産除却損	0	0
減損損失	21,375	3,653
新型コロナウイルス関連損失	20,096	—
特別損失合計	41,471	3,653
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	123,762	△46,909

	前事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
法人税、住民税及び事業税	585	585
法人税等調整額	—	1,018
法人税等合計	585	1,603
当期純利益又は当期純損失(△)	123,176	△48,512

製造原価明細書

区分	前事業年度 (自 2021 年 10 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)		当事業年度 (自 2022 年 10 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費	153,996	38.7	193,438	40.5
II 労務費	218,363	54.8	258,624	54.2
III 経費	25,753	6.5	25,002	5.2
当期総製造費用	398,112	100.0	477,065	100.0
仕掛品期首棚卸高	—		—	
合計	398,112		477,065	
仕掛品期末棚卸高	—		—	
当期製品製造原価	398,112		477,065	

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主 資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	55,000	25,000	25,000	4,309	4,309	84,309	84,309
当期変動額							
当期純利益				123,176	123,176	123,176	123,176
当期変動額合計	—	—	—	123,176	123,176	123,176	123,176
当期末残高	55,000	25,000	25,000	127,486	127,486	207,486	207,486

当事業年度（自 2022年10月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主 資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	55,000	25,000	25,000	127,486	127,486	207,486	207,486
当期変動額							
当期純損失（△）				△48,512	△48,512	△48,512	△48,512
当期変動額合計	—	—	—	△48,512	△48,512	△48,512	△48,512
当期末残高	55,000	25,000	25,000	78,973	78,973	158,973	158,973

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月31日)	当事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（△）	123,762	△46,909
減価償却費	10,328	1,803
緊急雇用安定助成金	△2,799	—
雇用調整助成金	△10,616	—
営業時間短縮協力金	△35,955	—
事業復活支援金	△2,500	—
トライアル雇用補助金	—	△120
補助金収入	—	△492
減損損失	21,375	3,653
固定資産売却益	△225,835	—
固定資産除却損	0	0
退職給付引当金の増減額（△は減少）	3,096	3,467
賞与引当金の増減額（△は減少）	6,080	2,791
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	4,932	2,445
売上債権の増減額（△は増加）	△9,201	△6,692
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,413	117
仕入債務の増減額（△は減少）	12,200	1,816
未払費用の増減額（△は減少）	4,133	4,352
未収消費税等の増減額（△は増加）	4,106	△26,466
未払消費税等の増減額（△は減少）	60,264	△60,264
未払金の増減額（△は減少）	4,279	2,455
その他	△14,731	22
小計	△49,497	△118,022
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△5,738	△2,431
補助金収入	124,034	612
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△585	△585
営業活動によるキャッシュ・フロー	68,217	△120,423
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,453	△58,846
有形固定資産の売却による収入	933,001	—
敷金の差入による支出	△4,000	△2,464
敷金の返還による収入	40	5,400
資産除去債務の履行に伴う支出	—	△5,963
投資活動によるキャッシュ・フロー	927,588	△61,874

（単位：千円）

	前事業年度 （自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）	当事業年度 （自 2022年10月1日 至 2023年9月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入による収入	—	51,500
長期借入金の返済による支出	△615,000	△1,842
リース債務の返済による支出	—	△435
財務活動によるキャッシュ・フロー	△615,000	49,222
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	380,805	△133,075
現金及び現金同等物の期首残高	169,520	550,326
現金及び現金同等物の期末残高	550,326	417,250

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、レストラン事業の単一セグメントであるため、セグメント情報については記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021 年 10 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)	当事業年度 (自 2022 年 10 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)
1 株当たり純資産額	351 円 67 銭	269 円 45 銭
1 株当たり当期純利益又は当期純損失金額 (△)	208 円 77 銭	△82 円 22 銭
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	—	—

(注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。当事業年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、1 株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1 株当たり当期純利益金額又は 1 株当たり当期純損失金額 (△) の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021 年 10 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)	当事業年度 (自 2022 年 10 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)
1 株当たり当期純利益又は当期純損失金額 (△)		
当期純利益又は当期純損失金額 (△) (千円)	123,176	△48,512
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益又は 当期純損失金額 (△) (千円)	123,176	△48,512
期中平均株式数 (株)	590,000	590,000



(重要な後発事象)

当社は、2023年11月6日開催の取締役会において、紺事業部の新たな店舗（しゃぶしゃぶ紺若狭店）の出店について決議いたしました。

1. 設備投資の理由

当社は、事業の継続的な成長とサービスを維持するために、紺事業部の新たな店舗（しゃぶしゃぶ紺若狭店）をオープンすることが必要と判断し、設備投資をすることを予定しています。

2. 設備投資及び借入の内容

① 出店予定場所	沖縄県那覇市若狭2-4-22 サニーパートナーWAKASA 1階
② 完成時期	2023年12月
③ 工事見積金額	内装及び付属設備 26百万円
④ 資金調達	銀行より借入予定

以上